

## ーコロナ禍を教材に大学生と対話の授業ー

大阪支部・上野山小百合

### 1. 一度も対面できない授業

初めての大学での実践です。「保健体育科教育法Ⅲ（保健分野）」を前期15回担当しました。クラスは16名です。ずっとオンラインで以下の授業をしました。

- (1) 新型コロナに関するレポート課題  
(4/18べ切)
- (2) 全員のレポート（匿名）集約を読み、学内LMS  
掲示板で4つのテーマについて実名で意見交流。  
(4/22~5/26)
- (3) 講義ビデオ視聴、レポートと掲示板投稿。（感  
染症、授業作りのポイント、指導要領、保健指  
導、睡眠の授業）  
(5/13~6/2)
- (4) Zoomで遠隔授業。新型コロナを教材、3人班  
で3時間分の指導案作成。  
(6/3~6/17)
- (5) 15分の模擬授業をZoomで行い、各自感想カ  
ードに良かったところとアドバイスを書き、集  
約して発表者に届けた。  
(6/24~7/22)
- (6) まとめ  
関大コロナ・アーカイブに投稿する最終レポー  
ト作成

### 2. 思いを言語化

緊急事態宣言が出された直後に書いたレポートでした。自分なりに情報を整理している学生もいましたが、コロナに関する様々な情報が溢れ、振り回されていたようです。1人暮らしの不安や、周りの軽率な行動をしている人への不満や政府への批判もありました。自らマスク行列に並んで不足の原因を調べたり、SNSアンケートをとって若者の思いを聞き取るなど様々な思いのつまったレポートでした。

「掲示板」交流のテーマは、レポートによく書かれていた内容から選びました。

- ① マスクについて
- ② 国民の動について
- ③ 感染者や医療従事者などへの差別について
- ④ 政府の対策について
- ⑤ その他

「Aさんの意見に賛成です。…」のように誰かのレポートに引き寄せて意見を書くように指示し、対話感が生まれるように工夫しました。

★**掲示板での議論①** マスクについて  
マスクが1番、意見を書きやすそうなので、まずはマスクから。

しげ子さんのレポート「どうしてマスク不足が解消されないのか」調べた→家のマスクがなくなりそう。薬局に7時から並び、4日目にやっと箱マスクが買えた。

→前の人たち数人はいつも同じ顔ぶれ、夜中から並んでいると気づいた。

→自分さえよければという人が買い占めてマスク不足になる。自粛をしない若者も他者への気遣いがない。

議論① マスクについて

- ・感染リスクを減らすためにみんなが協力しなければ。手作りマスクでも。
- ・自粛中にそんな大量のマスクがいるのか
- ・福井のようにマスク購入券を配布
- ・思いやりがあればマスク不足はない  
(上野山) 買い占め行動や、マスクをつけない人への攻撃はなぜ？
- ・買い占める人は、不安が高い。先行きが見えない不安と国の対応、ネガティブな報道が不安を

助長し手元がないと不安になるからでは。

- ・マスクは社会のマナーのひとつ。してない人を見ると不安になるから。
- ・マスクは作れるから工夫すればいい。
- ・カリンさんの感染を防ぐ5つの視点に賛成。

①3蜜を避ける②免疫力を高める（運動、食事、睡眠）③手洗い、うがい④こまめに水分補給⑤上向きな気持ち。人と話す。笑う。好きなことに没頭。ストレスをためない。

### ★議論②若者や国民の行動について

～ ヨシトモさんは SNS で若者アンケート～

ヨシトモさんのレポートによると、「若者は手洗い、うがい、アルコール消毒をしっかりと感染予防に努めている。感染しているかどうかなど不安や危機感を持っている。自分たちの行動が社会全体にとって重要だから考えて行動しようとかんがっている若者の姿が明らかになった。若者に対するマイナスイメージが多く報道され、感染した大学生への非難、差別…。しかし若者も深刻（バイト、学費、学習など）」

掲示板の書き込みでは、みんなのために外出を自粛し、サキさんたちのレポートにもあったように自粛期間をポジティブに考えて有意義にすごそうという意見が多く、「みんなで自粛期間を乗り切ろう！」というメッセージが多く書き込まれました。（ちょうどGW前）

国民が自主的に人との接触を減らし、感染拡大や医療崩壊を抑えることに貢献できたことは、素晴らしいと思いませんか！（5月13日上野山投稿）

### 3. ミナミさんの変化

強い政策を求める意見が数名あり、背景に何かあるのか気になっていた1人がミナミさん。

レポート：「日本はなぜ外国のロックダウンのよう

に強制力のある指示を明確に出せないのか…人権を守ることも重要だが、重大局面に対して締め上げるような法律を作ることができないのか」（4/16）

### ・マスクについて（4/27）

「不要不急の外出はするがアベノマスクなどに文句ばかり言うような人達はそんな暇があるくらいなら自らができるウイルス対策の万全を尽くすべきだと思う。自粛していればマスクも大量には必要ないし自分にできる対策はいくらでもあると考える。」

### ・講義ビデオ①の感想（5/18）

「コロナ騒動を通して政府の動き方や、国民の動向、また、今回のコロナ騒動から発生した様々な問題について意見交換を行ったが、自分には気づけなかったような視点からの問題の捉え方をしている人も多くいたので新たな視点から物事を見ることができた。私が今回の一連の流れで最も大切だと感じたことは、国民一人一人の意識の持ち方である。思いやりを持った行動をとること、危機管理意識を身に着けること、前向きな捉え方で物事を見ることが分かった。

（→「思いやり」が解決するという考えですが、強い政策以外の解決方法の重要性に気づいた。）また、自分自身、今まではニュースにあまり興味をもって見ることは少なかったが、積極的に正しい情報を取り入れたいという姿勢を身に着けていけるようになっていると思う。さらに深く考えさせられた。掲示板の交流はとてもいいものだと思う。」

※ミナミさんの変化にはびっくりしました。強制力で抑える政策を支持し、きちんと予防しない人を責めたりしていたのが、ニュースもよく見るようになり、掲示板の交流で色々な考え方に触れた

ことがよかったという変化に嬉しくなりました。

#### 4. パワーポイントでビデオにまとめ WEB 配信

- ① 5.13 新型コロナに関すること
- ② 5.20 新型インフルの授業に関する補足や質問の答え、学習指導要領の使えるところ
- ③ 5.27 保健指導と保健学習の違い（睡眠の授業を例に）

★視聴した感想は、メールと掲示板投稿の両方で提出。感想にはメールで返信→個人と対話（「先生が熱い」「リターンがていねい」と後で言われた）

掲示板はみんなと対話→学級通信の代わり

★授業の後の問いかけ（宿題）・・・掲示板での意見交流が進むようにねらって

授業ビデオ①：秋以降に第2波が来ると仮定します。あなたが国の責任者ならどんな対策をとりますか？

授業ビデオ②：外国でコロナにわざと感染して免疫をつけようとしているグループがあったが、どう思うか？

新型コロナの授業をするとしたら、どんな内容を入れたいか？

授業ビデオ③：②で考えた内容を保健指導と保健学習に分けてまとめる。3時間分の指導計画の案

★「掲示板の交流で、自分の考え方が良いように変わった」「真面目に書いてるんだけど、毎日掲示板を見るのが楽しみ」などの意見がたくさん書き込まれました。

★「前よりニュースをよく見るようになった。」「『あなたならどうしますか？』の問いで、世の中の事をよく考えるようになった。」

#### 5. 「親の授業参加」が大学生にも可能

ミチさん

「自分自身の考えを掲示板を通して文字に起こす

ことでより一層考えを深められ、また他人の意見や考え方を知ることが出来た。この授業のおかげで、普段よりもニュースをよく見るようになったし、気になったことは自らネットで検索したりと行動に移せるきっかけにもなった。それは先生が今回掲示板や YouTube での授業をしてくださったことで、私は内容により関心を抱き、もっと知りたいと思うことができたからだと思う。「世界では今こんなことが起きているんだ」「国の政策はどういう風に進められていくのかな」などと、常に疑問と発見を続けることで、また新たな疑問と発見が生まれていった。その中でも、やはり私は医療従事者に対するケアの大切さや、差別や批判をすることがどれだけ重いことなのかを知ることが出来、著しく変化していく社会状況において情報収集がいかに大切であるかを学んだ。一つ一つの情報の真偽を確かめながら理解と判断が必要であって自分には何が出来るのかを考えさせられるいい機会であったと感じた。」

ミチさんの最初のレポートでは、「院内感染の原因」「妊娠中の医療従事者、高齢者を守ることを書いていました。

ミチさんとのメールのやりとりで「母が看護師でコロナ患者も受け入れることになった」との記述があり、レポートの視点に納得しました。ミチさんの母に Zoom 授業参加をお願いできないか頼むと「母は、時間的に無理なので、自分が取材してみる！」と。以下は、ミチさんがお母さんに取材したこと。

・コロナの対応をしてないから、通常通り。コロナに感染するかもっていう怖さは、一般人と同じレベル。ただ、自分が感染したら勤務できず、同僚も濃厚接触者になるし。そうになると、かなりの範囲に迷惑をかけるし、、医療現場は迷惑レベルでは済まないから。その思いで感染予防には厳しくなるかな・・・

・近くのダイキンからマスクの寄付があった

・待てる入院は日程を変更して、入院患者を減らした。4人部屋を2人部屋くらいにして密にならないように。

・今までは、コロナ対応がなく入院が減ってるから、仕事量は減ってた。4月・5月は残業無し。

世間の医療現場はかなり大変やけど、楽チンで残業無し、減給も無しで、逆にストレスフリー。

・救急隊の人達や救急外来の人達は大変と思う。感染者扱いで対応する間は、完全防護の為。

・今の暇な分は、年内には戻ってくるから、その時に過労になりそう。

・現在は1つの病棟空にしてコロナ用に工事をしたようで、いつでも受け入れはできる状態のようです。入院も可能ですが現在入院者数は0。看護師も配置してるが、強制的にとか順番とかではなく同意を得た人だけ。今は患者がまだ回ってきていないので、その看護師は雑用にまわっている。3基あるエレベーターのうち1つはコロナ病棟への直通にする予定でもあるそうです。

■病院やその中の部署によって働き方が大きく異なることがわかりました。

★Zoom授業で、ミチさんの取材を紹介し、「足で稼ぐ教材づくり」をしようと提案しました

カリンさん：2020-06-03 22:57:32 投稿

やはり看護師さんの生の声が聞けるとリアルさが伝わってきたのでテレビやネットの情報より自分で調査したものの方が実感が湧くなと思いました。

しげ子さん：2020-06-03 22:27:32 投稿

今日の授業で、実際に医療現場で働く看護師さんの意見を聞いてすごくためになりました。テレビとかでは詳しく聞けないコロナウイルスのもっと詳しい情報を知りたいと思いました。グループ活動では、それぞれ違う考えなので、他の人の

意見を聞いてすごく勉強になりました。私には思いつかないような授業計画だったので教員になった際に活用したいと思いました。授業計画は、1人で考える時よりも他の人と一緒に考えた時の方がより内容の深い授業になるので良いと思いました。熱量を授業に組み込むという点で、実際にインタビューをするのは素晴らしいと思いました。私も保健所の人などコロナと詳しく関わっている人に詳しいことを聞いてみたいと思いました。

・ミチさん：みんなの教材作りにお役に立てたことも嬉しかったですし、なにより私自身が実際、足で稼ぐ教材作りを経験することが出来たので、その点でも良い機会となりました。随時状況が変わっていくので、看護師である母へのインタビューも続けていき、授業に活かしたいと思いました

**提案**：模擬授業につきましては、私は対面授業を希望します。授業を受けている人のリアルな反応が知りたいですし、感染防止策をとれば可能だと思いました。学校側のその方法も自分たちで考えれば良いなと思います。

※このミチさんの提案に感動しました。模擬授業はZoomでするか対面でするかの希望を聞いた返事です。コロナについて学習した自分たちだから、感染対策も自分たちで考えれば良いと、「さすが大学生！」と頼もしく思えました。

大学生にも、小学校のように、親が授業に参加することが可能だとわかりました。ミチさん親子は、この学習を通して相互理解が深まったのではないかなと思いました。ミチさんは、その後も周りの人を見る視点が素晴らしいと思うレポートが続きました。

## 6. 現場経験をしているアイさんの視点

高校で非常勤講師をしながら学んでいるアイ

さんの最初のレポートでは、「現在、私は高校で非常勤講師をしているため、大阪での感染者数が増えるたびに、『私が感染したら、高校の名前がニュースに出て迷惑がかかる』という思いでいっぱい、上野山先生のように、感染することが悪のように捉えられていることへ疑問を持っていませんでした。この講義で病気とは自己責任ではなく、社会問題として捉える視野を学んでいきたいです。」

・国民の行動について 2020-04-30 09:21:31 投稿

自粛要請に従い営業時間を短縮しているお店に対して、心ない言葉を言ったり、張り紙をする人がいます。実際にされた張り紙を見ると、ストレス発散や面白半分で行っているように感じます。自身のことで精一杯になりがちですが、様々な立場の人がいることを忘れずに、お互い様や助け合いの気持ちをより一層持つ必要があると思いました。

・医療従事者への差別について 2020-05-04 16:31:00 投稿

「医療従事者の子どもは受け入れられない」と断る幼稚園や保育所があるようです。リスクや他の保護者からの声などを受け、そういった対応をしたい気持ちは分かりますが、別室対応などもっと方法は考えられるのではないのでしょうか。また、政府も医療機関だけでなく、幼稚園や保育所、介護施設などにも厚い支援を行う必要性を感じます。

・この授業では、感染症を通じて様々な面から社会を考えるきっかけを得た。感染症の特徴や予防法はもちろん、医療従事者への社会問題や政府の対応についての疑問など、普段では全く気にしていなかったことによく目が向くようになった。特に政府の対応や報道に対して、「欲しい情報はそれじゃない」「なぜこの政策になるのか」など、自分の中で意見がたくさん出るのが面白い。

・現在、学校再開のために様々な準備が勧められています。その一つに「サーモグラフィーを設置し、

37.3度以上の熱がある生徒がいればブザーがなり、熱のある生徒はその場で別室へ連れて行かれる」というシステムが導入されようとしています。感染拡大を防ぐためには必要なことで、効果が期待できるのも分かります。しかし、登校してすぐに多くの生徒の前でブザーがなり、別室へ連れていかれた生徒はどう思うのでしょうか。もし私がその生徒なら、その瞬間に周りにコロナだと思われていないか不安になりますし、次の日から熱がなくても学校へ大変行きづらいです。サーモグラフィーは他国がしているから日本もするのでしょうか？この方法以外に感染拡大を防ぐ方法はないのでしょうか？

※教師の目線で考えていること、世の中の色々な動きをしっかり見るようになり、そういう自分の成長を感じているアイさんは、とても前向きで、みんなにも掲示板で刺激を与えてくれました。

## 7. 11年前の新型インフル実践→新型コロナ実践

・11年前に新型インフルが流行したとき、「先生方もかからんといてください。かかったら新聞に載りますから」と管理職に言われました→「病気になるのは悪いことなのか？ 病気は自己責任か？」→社会問題である。

パンデミックは個人の努力では克服できない。→国の責任者は何をすべきか？ 弱者が大切にされる社会か？

・正しく怖がるのが感染拡大を抑え、差別を生まない→感染症に関する科学的知識をわかりやすく教える

・尊い命を守るにはどうすべきか考える→みんなの命を守るために、病気の時は休むと考え、色々な人と対話しながら、6年生のクラスを3時間だけ借りて、実践をしました。

(子どもも大人も)11年前、「熱があるくらいで休むな！」「インフルエンザでも出てこい！」とい

うのが常識でした。新型インフルのパンデミックでやっと、「熱が出たら休める。」「インフルにかかったら休まないといけない。」が普通になりました。近年「長時間労働」「過労死」「働き方改革」が社会問題になっていますが、なかなか長時間労働が解消されません。しかし新型コロナで、日本人の働き過ぎを減らさざるを得なくなりました。流行が収まった後の働き方を、真の意味での「改革」にしなければと思います。

## 8. 「足で稼ぐ教材」がヒット！ 動き出した！

後半は Zoom で、3 人グループで指導案作り、模擬授業の発表は全員 15 分ずつしました。指導計画を話し合わせると、どのグループも活発に議論がすすんでいました。各班の案を発表し、最後に感想と各班で話し合った内容は掲示板に書き込んで共有しました。

### 授業の振り返り 2020-06-03 18:21:26 投稿

1 人で考えるよりグループワークでどんな授業をしていくか話し合う方が話や内容が進むし、色々なアイデアや視点から考えられていたので非常に参考になった。大体どのグループも 1 時間目はコロナについての知識を学習するところから始まるけれど、2 時間目からグループによって個性が出ていたと感じた。足で稼ぐ授業については身近な人にインタビューをするなどして、実際に学んだ知識との相違点を感じたり、自分と違った考え方を持つ人と話すことで多様性を感じたりすることができ、成長に繋がる部分が多くあると思った。知識を学ぶだけではなく、足で稼ぐ授業のように実践的な要素を取り込んだ授業や地域活性化にも繋がっていくような広い視点から見る授業を作っていきたい。(サキ)

ミチさんの取材から広がり、多くの「足で稼ぐ教材」が生まれました。院生で高校非常勤講師を

しているアイさんは、高校でのコロナ対策と生徒や教師の実態を模擬授業で詳しく解説しました。小学校の学童保育でアルバイトをしているチアキさんは、学童での工夫を模擬授業の中の一部に入れていました。「アベノマスクをどう評価するか」などを SNS で 100 名以上もアンケートをとってまとめたグループもありました。マユミさんは、京都の大学生への差別問題の資料集め。カリンさんは高齢者施設の取材など。マスク行列に並んで研究したシゲ子さんは、模擬授業で教材として使い「皆さんも、色々なことを自分で考え、疑問に思ったら『足で稼いで』調べてみてください」とまとめたのには感心しました。「足で稼ぐ」が意外と学生にヒットしました。小学校の実践で「動き出す子どもたち」を経験しましたが、大学生も同じような視点の授業をすると「動き出した！」のです。

この学生時代にコロナを経験した学生が、先行きが見えず不安な今を言語化し、社会を見る目を育て、自分が仲間と学び合う中で自分自身が成長したと実感していました。教師として指導案や授業のスキルアップだけをめざすのではなく、学生自身がこの取り組みを通じて感染症や社会の見方が変わり、学ぶことの充実感を感じてくれたらと思って、指導案づくり、模擬授業に取り組みました。

この時も、感動するような学生の変化がありました。以下の 3 人です。

### (1) ミナミさん

その後の成長も素晴らしかったです。グループワークでは、率先してグループの意見をまとめて授業以外にも集まって相談していました。指導案の教材観は、A4 で 1 枚びっしり自分の言葉で書かれていました。ミナミさんの

グループ全員が教材観をしっかりと書いていました。(資料1)

最終レポートにミナミさんは持病があるため重症化するかもと、下宿一人暮らしでとても不安だったことが書かれていて、最初の攻撃的なレポートの背景がわかり、なるほどと思いました。仲間との意見交流で、「正しく怖がり」希望を持つことができよかったですと思いました。

## (2) リョウさん

- 最初のレポート「理髪店や質店、飲食店、喫茶店も自粛要請を」「休業手当つける。生保の人は対象外」「安倍は緊急事態宣言を出し惜しんでいた」
- 掲示板：情報が正しいかどうか自分で判断。自分の行動が良くも悪くも周りにどう影響を与えるか考えて行動
- 政府の対応：宣言解除でストレスがたまっていた国民が…政府はその時の数値だけで判断せず、最悪の状況を想定して徐々に解除を。→皆の政治への批判的な見方に影響を受けて意見を書いていると思いました。
- 5.17 授業の感想：韓国を見習い、過去の反省から早めに対策をとっておくべきだ。

だんだん、社会的な視点でみる事ができていましたが、態度主義的な内容も多いなと気になっていました。グループワークも心配で、アイさん(高校非常勤)と同じ5班にしました。初日アイさんが仕事で遅刻するとリョウさんは、リーダーとして大活躍でした。アイさんに教え、指導案作り。リョウさんの自分の指導計画案は、グループワークで新聞作りになっていました。その後の班での議論はよくわかりませんが、多分アイさんのリードで内容が整理され、充実していったと思われます。新聞作

りの代わりの案を作っていました。授業以外にも Zoom で集まり、模擬授業の発表順が1番になりましたが、前向きでした。

他の班の授業を見て、毎回「すごい、みんなのレベルが上がっている！」という感想を書き、最後には「やはり、全体的にクオリティがどんどん上がっている。Zoom で模擬授業という初めての取り組みだが、全員で素晴らしい物に出来てきているのではないかと感じた」と模擬授業を受けることで仲間から多くのことを学んで成長していることがわかりました。

## (3) タイキさん

実家が愛知、大阪で1人暮らし。

- 最初のレポートは「今だけの辛抱」「カラオケ店からマスクもせず、大声で笑いながら…若い集団」「国のトップが緊急事態宣言を出しても、自分が変わらなければ意味ない」と若者に厳しい意見を書いていました。
- 影響を受けた YouTube の動画「感染してしまった女性の訴え」→模擬授業で入れた
- 行動：ミナミさん(強い政策)に賛成。タイのように厳格に。他国はすべて徹底している→この投稿を意識して、タイのタクシードライバーの自殺を取り上げました
- タイキさんの書き込みの後に、ヨシトモさんがミナミさんのレポートの中の若者の政治的関心の高まり、SNSでも有名人が発言し出したことを評価する投稿をしました。その後、強い対策を求める声が消されるかのような、自粛期間を前向きに捉えようという投稿が続きました。→ヨシトモさんの投稿がミナミさん、リョウさんに影響を与えたのでは。
- 5.18 授業の感想の投稿：最初コロナ、他人行儀だった。「自由」「安心」が剥奪されて…(自分の不安な気持ちを素直に表現し始めた)

私は前回のレポートで自身を含め若者はもっと責任ある行動をしていく必要があると厳しい発言をし、実際に報道などで大学生が感染しているのを聞いた街ゆく人にこの状況についてどう思うかインタビューしていくと仕方ないのではなどと、他人事のような受け答えをしている人をテレビ越しで見ている。これにより若者はマイナスイメージを持たれるようになったが、この授業をしていくことで考えが変わった。今現在では、若者同様苦しい日々を送っている人も数多くいる。バイトが思うようにいけない(シフト削減)、学費が払えない、学生の仕事である勉強にも励めない(オンライン・自宅学習)。果たして若者にばかり批判の声が上がっているものなのか。皆それぞれの苦しみと戦っているのにも関わらず偏見を持ってしまったことへの反省と世間やメディアに対しての印象ががらりと変わったことがこの授業を通して改めて痛感させられた。

・Zoom 授業では、最初はずっとうつむいて自信なさげでした。

・コロナで教えたこと：「正解のない質問」「純粋な気持ちをクラスで打ち明けてもらいたい」「家での工夫を交流」→これも大事だけど教えた内容は考えているのかな？と心配でしたが、同じ班の4回生のカオリさんが休むと、自分がリードして、積極的に議論を進めてくれました。その後、指導案も真っ先に提出するなど意欲満々でした。

「しげ子さんはいいなあ、もう教材(マスク行列)ができて。」と言いつつ、最初に自分が影響を受けた YouTube の動画を授業で使いたいと話していました。カオリさんが戻り、途中から参加した4回生のマオさんに「3回生なのに自分で指導案を作れてすごい」と褒められ、嬉しそうな表情。

・3回目の模擬授業発表の感想

「今回の模擬授業では、生徒の考えを聞くという時

間がより多く見られた。正解がある答えをただ相手に質問するのではなく、道徳のように生徒自身が発問に対して頭の中で考え、自分の言葉で発表することに意味があり、この方がより知識としてためになると感じた。そしてこれまでの人ら全員が上手で、オンラインを駆使し生徒が理解できるようにどう工夫しているのかがしっかり聞いていて感じ取れた。」

・自分の模擬授業発表

タイキさんは、最後の回で発表しました。「これまでの全員が上手」なのでプレッシャーもあった様ですが、最初のレポートで取り上げた「感染者が、苦しい息をしながらコロナの怖さを訴える YouTube 動画」を授業に使い、コロナの特徴と感染防止を考えさせたあと、「正義中毒」の意味を話し、世間の若者批判とは対照的な若者の姿を集めた SNS アンケートの結果を示しました。

「自粛警察」という言葉は聞いていましたが、彼は若者目線で「正義中毒」の言葉がぴたっときたのでしょう。彼の格段の成長を感じ、うれしくなりました。

## 9. 新型コロナウイルスの教材化の意味

「この経験を学生時代にした私たちだからこそ見えてくる観点があり、それを教材化したい。現時点での私の観点は、流行病の不安は社会的にも悪循環を生み出しているが、こんな時だからこそ人と人はどのように繋がっていけるのかを子どもたちと一緒に考えていきたい。(ヨシトモ)」

「人との接触を8割減で、『人と繋がりたいという欲求』に気づいたのでは。新型コロナウイルスの負の側面だけでなく、未来に希望の持てる事実も記録しておきたい。」(上野山)と投稿すると

掲示板 4.29「大学生が受験生のために無料でオンライン授業をやっているのを見て行動力がすごいと思った。こういった自分のためだけでなく人のため

になる活動が増えてほしい。(カリン)」

掲示板 5.26「今回の授業で、記録を取り、残しておくことがどれだけ大切かわかった。自分には新型インフルの記憶がほとんどない。記録しておくことで確実に記憶に残せるのかなあ。(クレハ)」の投稿がありました。この投稿も影響を与えていたことが、最終レポートでわかりました。

オンラインの対話でもここまでお互いを高め合うことができるとは、想像していませんでした。

6月に4回、先月末に2回、健康教育オンライン分科会をしました。6月に関大コロナ実践の途中報告をしたところ、すでに実践をしてはじめていた方、その時に学習してやろうと思った方が次々と実践をされました。小1、小3(2人)、小4、小5

小6、中3の7本もの実践報告がされました。

そこで、報告された山梨の堀江さん(中3)が報告の中で、対話の授業をしようと思ったきっかけについて

「6月19日、20日の健康教育オンライン学習会に出席。上野山実践の対話の授業はとても興味深いものでした。学生さんに借り物の考えと自分の考えの間を何度も往還させる「対話」を仕掛けることで、概念が形成されていく様子を学び、感動しました」とありました。ちょうどその頃ヴィゴツキー学習会で読んでいた『思考と言語』第5章の概念発達の章での学びとも繋がりました。最初のレポートは、ネットやワイドショーなどの「借り物の考え」だったのが、学生同志での学びで自分の考えを問い直し、気づかなかった視点にも気づき、最後には、人の言葉を借りなくても自分の言葉で自分の考えを表現していました。ヴィゴツキーは、「擬概念」が「概念」になっていく過程を緻密に研究しています。概念形成への重要な基礎が幼い頃から始まっていることも書かれていまし

た。実践報告には、低学年の子どもも新型コロナのことをここまでよくわかっていて書き言葉にできることに感動しました。「1年生には難しすぎる」「大学生だからできた」というのは、間違いだと思いました。

実践報告で共通していたことは、コロナ禍で心身共に傷ついている子どもたちの思いを聞き取り共感するところから始まっていたところでした。子どもたちに作文を書かせると、一気に集中して書き始めたということも共通していました。

教師もコロナで辛い思いをしていますから、子どもたちの思いを知ると、辛くなるかも知れませんが、何とかしたいと思い、一生懸命教材研究をしたり、子どもたちの疑問や不安に応える授業をしようと思って踏み出されています。授業をしてみても「子どもたちが求めていた学び」だったことに気づいたというのも共通していました。

そしてその学びのなかで、不安が和らぎ仲間との学びの中で成長していく姿がありました。

後ろのページの資料1：指導案の教材観や最終レポートの抜き書きもぜひご覧ください。

指導案の教材観もしっかり書き、模擬授業も教科内容についても感染症の基礎的知識をきちんと押さえ、伝え方を工夫して個性が溢れていました。オンラインでの模擬授業でしたので、反応が感じにくいので、聞いた方も感想やアドバイスを書いて提出してもらい、全員のを集約して授業者に戻すようにしたところ、授業者にとっても好評でしたし、模擬授業を受けた方も「みんなのレベルが上がってきている！」などと達成感を持っていたのが嬉しいです。これも、小学校の実践と同じ感覚を持ちました。子どもたちは、仲間と動き出す中で授業での学びを自分のものにしていき、自分も社会のために役に立てるという充実感を味わって自己肯定感が高まっていったのですが、大

学生も同じでした。模擬授業をする立場に立ち、自分の学びを人に伝えることで、ヴィゴツキーの言う概念形成がされ、自分の成長を自覚していったのだと思いました。

健康教育で繋がる人間関係は、いつも深いところで繋がっているという感覚がありました。この学生達とは一度も対面していませんが、16人全員がそれぞれのよさがあり、全員が好きになりました。

#### 10. 最終レポート～関大コロナアーカイブに～

最終レポートは、大学で募集している「コロナアーカイブ」に投稿しようと提案して全員の同意を得ました。どれも力作で、感動しました。最初のレポートとは対照的で、自分の言葉で自分や社会を客観的に見つめて書いていました。「コロナのおかげ」という言葉も多く、コロナのマイナス面だけでなくプラス面を書いている学生が多く、この授業でコロナによる不安な暗い気持ちを授業作りによって昇華させることができたのではないかと思います。これも、小学校の健康教育で常に心がけてきたことと同じでした。

健康問題から社会問題を見て事実を知り、暗い気持ちにさせて終わるわけにはいかないので、希望が持てる教材を探して提示しました。この実践では、学生が希望の教材を模擬授業や最終レポートで示してくれました。学生達の学びから、未来は明るいと感じました。

それぞれの文章が長いので、一部分ですが紹介します。

■コロナは人を死に追い詰めたり、人の安心を奪っていくものであるが、その一方で大切なことに気付かされたと私は思う。それは対面で話すことの楽しさであったり、コミュニケーションをとる必要性であったり、人を思いやる気持ちである。

どれも日常的に行われることであるが、自粛によって人と会うこと・話すことが激減した影響でそれらが当たり前ではなかったのだと気付かされた。リモートでも人と話すことは自分の健康に繋がるが個人的には心の距離を感じる場面があるので、やはり対面を超えるものはないと考える。対面だからわかる空気感や表情、人の温かさが好きなので改めて対面の素晴らしさを感じているし、これからも気を抜けない日々が続くけれど「人と話すこと」は続けていきたい。(サキ)

■マスク行列に並んで調べ模擬授業でも使った。今まで、足で稼いで調べてみるということをこんなに本気でしなかったことがなかったので、今回コロナというものをきっかけに気づくことができてよかった。この経験を教員になった際に子供たちにも伝えたいと思った。足で稼いで調べてみることはたくさんのもので得ることができるということを多くの子供たちに伝えたい。

上野山先生はなるべく知識を一方向的に伝える授業ではなく、私たち生徒に考えさせる授業をメインにしてくださっていたので、さまざまなものが身についた。こういった経験から、アクティブラーニングは、生徒の自主性など様々なものを身に着けることができるのでアクティブラーニングをたくさん取り入れた授業を組み立てていきたいと思った。

将来今回の新型コロナウイルスのようなことが起こった際に、私が教員だったら、上野山先生がインフルエンザの流行の際に行っていた上野山実践のようなものを行いたい。そのために、今回のコロナ禍での情報などを残しておきたいと思った。実際にコロナ禍での私の心境なども日記をつけていたのでそういったものも用いて授業を行いたいと思った。新型コロナウイルスでの緊急事態宣言中の新聞記事などの社会情勢を知れるものや、感染者が伝える動画、私の日記、私が実際にマスク不足につい

て足を稼いで調べた教材などを残しておき、将来同じようなことが起こった時に役立てたいと思った。

(しげ子)

■「変化させられた」感がある今の社会では、より窮屈（情報に左右されることが社会問題につながること）と美化（人のつながりのすばらしさや求められる道徳心を確認すること）が相対的に繰り返す循環社会がつづくかもしれない。また、一方では、「A意見がいい」や他方では、「B意見しかない」など、誰も両者を組み込んだC意見を作ろうとしない、変化を拒む風潮もあるかもしれない、しかしこのような事態だからこそ、一人一人の変化を持ち合わせ新たな社会を作り、後世につなげていくことが大切である。その点、教育や子どもたちに求められる能力というものが大切になってくるが、「教育は未来であり、子どもは希望である」の自己の基盤のもと、教育に携わっていききたい。

新型コロナウイルスによる生活の変化は、私にとってありがたいものであり、これからの教育観を左右する大事な分岐点になったので忘れられない経験になった。

(ヨシトモ)

■緊急事態宣言が出てからは家族が家にいる幸せを感じた。『コロナのおかげ』である。

オンラインで1人1人の顔がしっかりと写っていて意見を交換できたことはとても素晴らしいことだと感じた。グループになって指導案を作成し、アプリの中でチーム分けができることにも驚いた。この経験は、これからのネット社会で役に立つことである。これも『コロナのおかげ』である。(クレハ)

■新型コロナウイルスの情報は、SNSから得る事が多かった。(いい情報も、悪い情報も)おうち時間への呼びかけは、有名人からの発信があったから、世間に比較的速いスピードでおうち時間の習慣が広まった。SNSの効果は素晴らしかったと思う。し

かし、問題となっている誹謗中傷。便利となる反面怖い部分もあることもしっかり伝えつつ、使い方を間違わないような指導もしたいと考える。SNSのことは教科書には載っていないし、ましてや誹謗中傷の言葉なども載っていない。このようなことはSNSを利用する上で、必ず学んでおくべきだ。

教科書に載っていることだけでなく、社会に出て通用するような知識も教える事ができればいいなあと思った。教科書に載っていることは最低限で、プラスアルファで知っておきたい、今後使えそうな知識も必要だと思う。(今回で言うと、保健の教科書にある感染症の分野から発展させて、今起こっているタイムリーなコロナのことにつなげるところ)実際、今、教科書に載っていたことなんてほとんど日常では活用しない。もっと他にも教えられる事がたくさんあると思った。(自分も中高生の時代にもと先生から社会について教えてもらいたかった)

(レナ)

■今回、指導案をつくり模擬授業をしてみて、子どもに教えるからにはしっかりと知識を持っておかないといけないと感じた。また、ニュースなどの情報だけでなく、身近な部分からの情報(足で稼ぐ資料)などを取り入れることで興味関心が深まることわかった。他の人たちの模擬授業を受けて、良い部分・改良が必要な部分を見られとても参考になり、特に、写真や図などを間に挟むことでリフレッシュになり印象にも残りやすかったり・・・とても刺激になったりした。教師になった際には、確かな情報を伝えるよう言葉には責任を持ち、わかりやすい授業ができるようこれからも試行錯誤していきたい。

(カリン)

■《誰のための政策なのか》1世帯に2枚ずつ配布されたアベノマスクに対する批判はとても多数寄せられていた。税金の無駄遣いにしかならなかった。医療現場や介護施設などではマスク不足が解消さ

れていなかったにも関わらず、本当に意味のあるものだったのか。なおこのような批判を受けてもさらに8000万枚の追加配布が決定した。誰も望んでいないありがた迷惑であるし、他にすべきことがあったのでは無いだろうか。医療従事者の意見ではマスクよりもフェイスシールドや手袋の方が必要であるそうだ。おおよそ260億もの金額をかけてとられた政策であるがこれは一体誰のために行われ、国民の意見には耳を傾けないままであるのか疑問に思う。次に観光需要喚起策として7/22より開始された「Go To トラベルキャンペーン」。不景気に陥り、経営悪化も見られているが全国で1日に1000人近くの感染者が出ているこの時にとるべき政策であったらどうか。何よりも国民の命を守ることが大切であり、せめてワクチンが完成するまでは感染拡大防止に努めるべきであろう。旅行を進めること自体に私は反対である。

私自身実際に足で稼いで教材をつくることは初めての体験であった（看護師の母へのインタビュー）が大変なことよりも新しい発見や伝えたいと思う内容がとても多く、自分のためにもなった。この教材作りの方法もこれから教員を目指す上で参考にしたい。（ミチ）

■私は世界で感染者が出たことも、知らないでいた。知らないというより、自分は関係ないと、全く聞く耳を持たず知ろうとしなかったのだと思う。後悔した。そのため、新型コロナウイルスについて調べよう、曖昧で確証のない情報を鵜呑みにせず、周りの人は実際どういったことに関して悩み苦しんでいるのか知ろうと思い、行動した。ネットの情報から足で稼いだ生の声まで、自分が納得し、相手に理解されるまでの正しい内容を手に入れようと。

この講義内の情報も私の大きな情報源になった。私が調べきれなかったことも、ほかの学生が掘り下げて調べていたり、自粛期間の感情や生活リズムの変

化、一般的に知られる報道内容を見ての率直な考えなど、意見交換ができる時間があったからこそ今の私の中にあるあらゆる情報が整理されていると感じる。

東京を中心に現在第二波が私たちに襲い掛かっている状況だ。また、正義中毒を正しいことであると勘違いし、誹謗中傷による暴力も問題となっている。これまで自分たちが得た情報は、良い意味でも悪い意味でも今後の流れを大きく左右するに違いない。（タイキ）

■「今後また同じことが起きたら」

このような感染症は、世界的に見れば、割と頻繁に起こっている。また日本でもいつ同じような事態が起こるかわからない。

会社や学校などの組織的なものにおいては、休む勇氣も持たなければならぬと思う。自分の体調を管理し、無理に頑張ることが実は他人に悪影響を及ぼしかねないという事を覚えておかなければならない。大切なのは、自分を守ることが、周りの大切な人も守るという事だ。そのことを念頭に生活していかなければならないと考える。

発問の時間や、グループワークは一回の授業に必ず必要だと思った。みんないろんな授業の仕方があったり、掲示板での意見でも多様な考え方があって、わたしの中では生まれることがないような考え方も多くあったので、すごいなと感心した。ほかの人との意見の交流は、つまりお互いの刺激になり、高め合えるものにつながると分かった。

お互いに意見を言い合える、相談し合える仲間がいるという事は、実際に先生になっても助け合える仲間であると思うので、将来困ったことがあるときでも刺激やアドバイスをもらえていたらいいなと考える。（ミナミ）

■緊急事態宣言による自粛は決して無駄な期間では無かった。このままではダメだと思い、考えを改

めた。それは自分を見つめ直す事と新たな趣味を見つける事に専念する事だ。その為、自己分析が出来た様になった上読書が好きになり、1ヶ月で6冊の本を読んだ。これらの事から自粛期間全てが欠点であったとは言えない事がわかる。1人1人が自粛期間の辛さを思い出し、あの期間が2度と来ないように対策を怠らないよう行動していかなければならない。(リョウ)

■不安でいっぱいだった。また、そのように強く不安に思うのには大きな理由がある。実は私の母は現在癌治療中である。だから私は絶対に感染するわけにはいかない、ウイルスを持ち帰ってはいけないと強く思っていた。授業を受ける以前は、新型コロナウイルスについての知識がなく、あまり知らないけどただただ恐ろしいものという風に無条件に怖がっていた。しかしコロナの模擬授業をするにあたり調べることで、正しく怖がる事が出来たように感じる。

衝撃だったことが、マスクは予防としてはあまり意味がないということだ。しかし感染拡大を防ぐこと、接触感染を防ぐことはできる。そして、何より周りへの思いやり、配慮の目に見える表し方ではないのかなと私は考える。弱者を守るという視点から見ても、マスクはそのような人の不安を軽減することが出来る。ウイルスに打ち勝つためには国が一団となりみんなで意識を持ち防止に努める必要があるのだ。

擬授業で紹介した学童では遊び方が絞られている。しかし、その中でも楽しく遊ぶためにルールを変える、一工夫加えるというようなことをした結果楽しく遊ぶことが出来るというようなことである。このような状況の中で暗い気持ちでネガティブになるのではなくその状況をもプラスに捉え、柔軟に対応し、自分たちの生活を守っていくことが大切なのではないかと考える。(チアキ)

■もう見るのも嫌になっていたところ、授業でもコロナについて考えないといけないとなり、初めは嫌気をさしていた。しかし、みんなの意見を見て自分とは違う考えや、緊急事態宣言での行動の変化や、コロナや日本に対する思いが綴られているのを見て、私はとても感銘を受け、ニュースなどを見てより学生同士で意見交換する方が勉強になると感じた。そこで、コロナについて学ぶ意欲が湧いた。この授業で学んだことを自分たちが教員の立場に立った時に、これからの子供たちにどう伝えていくのか、何を1番伝えたいのかということを考えるいい機会にもなった。伝えるためには、しっかりと自分たちがコロナに向き合って学んでいく必要があり、コロナを題材にした時にどういう授業にしたいのかなど本気で考えられるようになった。

(カオリ)

■①第1波の自分と②第2波の自分を比較

・マスク…①手作りマスクでも十分⇒②ニュースで飛沫についての説明が多く、国民のなぜマスクを着用するかの意識が変わりつつある

・国民の行動…①自粛を前向きに、心の健康。様々な立場の人⇒go to キャンペーン、地方初感染者差別、今後も様々な形で現れる。

・政府…①今後のビジョンを明確に②大阪モデル意味がない。医療現場第1波のダメージ回復しきっていない状態で第2波は不可能。医療現場と豪雨被災地へのコロナ対策を早急に

本講義は私に、感染症を通じて社会を見る新たな視点をもたらしてくれた。今後も、この経験と考え方を活かして、生徒に広い視野を持たせる授業づくりを行いたいと思う。(アイ)

■新型コロナウイルスと社会問題

① アルバイト先での出来事…自分は、塾講師シフトが減り退職→精肉店と障がい者施設の夜勤友人 A が体調不良で休むと上司に怒られたが、

「病気になるのが悪いのか？」と思いながらも何も  
言えなかった。

② 教員 B・・・密な職員室での長い会議に「早く話し  
終えてください」と発言。周りの先生方は受け止  
めてくれ、改善してくれた。Bさんは、先月赤ち  
ゃんが生まれたばかりだと知っていたから。  
教員 C の学校、消毒などしっかり感染対策をし  
ていたのに感染者が出てたたかれた。

③ 家族の問題（略）

④ 友人 D は、クラウドファンディングで経済的困  
窮家庭の子どもに弁当を配ってきた。その弁当  
だけが 1 日のご飯である子も多数。

この日本では、様々な社会問題が起きている。コ  
ロナウイルスによって、学校に行けない子どもたち。  
家庭で虐待されていたら、どこにも逃げ場がなく絶  
望の毎日だろう。

私の将来の夢である、様々な背景を抱えた生徒を  
救い、誰もが安心のできる学校をつくるためにも、  
様々な社会問題を多方面から学び、自身の問題と向  
き合っていきたい。 (マオ)

## 保健体育科学習指導案

3 班 (サキ・ミチ・ミナミ)

1.日時 2020 年 7 月 8 日

2.場所 教室

3.学年・組 中学 2 年 2 組

4.単元名 「新型コロナウイルスについて学ぶ」

5.教材観

教材について

全世界で大流行している新型コロナウイルスであるが、各メディアが膨大な量の情報を流している。全ての媒体で確認することは難しく、また取り上げられている情報が全て正しいわけではない。デマ情報によってスーパーやドラッグストアから日用品が消えることも実際にあった。このことから、出回っている情報は正しいのか見極める情報リテラシーが必要になってくる。この教材では公式ページなどの根拠が明確になっている媒体からコロナウイルスについての情報を取得し、ウイルスに対して正しく理解し、知識を上書きした上で自分や他の人の命を守るためにはどのような対策をするべきなのかを 1 人で考えるだけではなく、グループワークを通して対話をしながら考えていってほしい。そして身に付けた知識を家庭で話すことで知識を共有し、正しい情報を知る人が増えていくことでより確実な解決策を考えることができると考える。実際の医療現場の看護師さんからもインタビューを聞くことができるので、リアルのことを教えてもらうことで身近な問題へと感じてもらうことができる。また、マスク不足を解決するために家にあるものを使って簡単なマスク製作を体験して、自分の身を守る方法を知る。

私自身コロナウイルスに対して当初は軽く考えており、「いつものインフルエンザみたいなものだろう」と考えていた。しかし日が経つにつれ中国で起きたはずなのに日本でも感染者が確認されるようになり、その人数も一気に増えていき、ようやく「これはやばいな」と気づき始めた。約 1 か月間の緊急事態宣言後、確実に歩く人が倍増したがまだ国としては収束していないし、ワクチンも作られていないのが現状であり、第 2 波も視野に入れておくべきである。経済を回すために買い物をするのは確かに必要であるが、今でも必要最低限に済まし、不要不急を続けてほしいと感じる。もしかしたらまだ生徒の中に当初の私のようにコロナウイルスを甘く考えている人がいるかもしれないので、この教材では自分が感染源になる可能性があるという意識を持ち、自分の行動が他人に迷惑をかけないか考え見つけ直すようになることで、物事を自分中心ではなく全体で捉える姿勢を学んでいってほしい。人によって感じ方はそれぞれであるので授業やグループワークでお互いの意見を共有することで、意識のベクトルを同じ方向に向け、授業以外でも例えば手の洗い方やマスクの着用、遊びの誘いに対して自然とお互いで注意や呼びかけができるような環境にしていきたい。

(サキ)

パンデミックと称されるほど全世界で大流行している、新型コロナウイルスについては、数多くのメディアが取り上げている。しかし、この新たなウイルスは、私たちにとってまだまだ未知で不可解な部分が多く、世界中で原因解明にむけて必死な研究が進められている。毎日情報が更新され、ネット上では矛盾している内容すら見受けられることもあり、私たちにはこの莫大な情報量を正しく選別し、正確な情報を見つけ読み取る力が要され、自分や自分の周囲の身の安全を守っていかなければならない。デマの情報によってスーパーやドラッグストアから日用品が消えてしまい、ほんとうに必要としている人が品不足で困っている状況も続いていた。情報整理第1歩としては、新型コロナウイルス事態についての詳しい知識を得るために、ウイルスの発生原因や、感染経路、日本における感染者数、入院者数、重症患者数などを学ぶ。そうすることで現在に至るまでの新型コロナウイルスがもたらした影響についての歴史を知ることが出来る。そして、日本では、どのような対策が取り入れられており、どのようにして、全国各地で収束へと向かうことができたのかを知る。しかし、第2派が来ている地域もあり一概に収束したとはいえないが、今後のためにも政策だけでなく国民が取り組むべきことにも目を向けておく必要がある。このように、正しく判断した情報を理解し、そこからその知識を元に自分なりに考えて行く力をつける。そのために家庭での対話にも積極的に取り組み、家族が支え合っていくためにはどうすればよいのか、また学校の授業でもとりあげ、グループワークなどを通して、自らの意見を発信し、他者の意見を受け入れて共有することで、そこからまた新たに考えを深めていってほしい。また、世界とも比べてみて、世界ではどのような事態になっているのか、どのような地域で感染が拡大しているのかを知り、それぞれの地域でどのような対策が取られているのかを知る。日本だけでなく世界共通で直面しているウイルスという課題にどのように向き合っていくのか、どのように共存していくのかを詳しく学ぶことで、今後に生かすことができる。このように他規模で客観的に比較することで、より一層知識に深みが出てくる。このウイルスに対して、現在、様々なワクチン開発が進められており、日本でも治験が告知されており、近い将来ワクチンができるであろう。新型インフルエンザと異なる点のひとつとも言える、ワクチンがない現在の状況では重症化するケースも多く、子供や高齢者、そして喫煙者などは特にリスクが高いと言える。しかしながら実際に私たちへ薬の投与がなされるまではかなり時間がかかるうえに、厳しい審査や段階を踏まなければならないため、ウイルスが感染拡大しやすい秋冬までに完成するのは難しいといわれている。よって、現在感染者数が減少してきている地域でも、第2派が来る可能性を恐れ、対策をしていかなければならない。政府はどんな対策をとろうとしているのか、各自治体は市民に寄り添えるような対応策を出しているのか、そして私たち自身は、今回の自粛期間の中でウイルス拡大の恐ろしさを目の当たりにして、次に同じようなことが起こった時にどういった行動をとるべきなのか、また、感染爆発や医療体制の崩壊が起こらないようにするためには何ができるかを考えておく必要がある。看護師の方からのインタビューなどから、実際医療現場に携わる人の意見や実態を学び、自分の体験や経験を通して、私たちにできることは何かあるのかを考えたことを、他者にしっかり発信していく力を身につけて、自分では気づくことができなかった視点からの学びを生むことにもつながり、そこから派生して新たな疑問点や、問題点にも気づくことができ、より一層深堀して考えていくことができるような対話的な授業を行う。(ミチ)

全世界で大流行している、新型コロナウイルスについては、数多くのメディアが取り上げている。しかし、新たなウイルスは、私たちにとってまだまだ未知で不可解な部分が多く、世界中で原因解明にむけて必死な研究が進められている。そんな中で、様々な情報が毎日更新されていっているが、莫大な量の情報の中から、私たちは間違った情報に惑わされず、正しい情報を見つけて、自分や自分の周囲の身の安全を守っていかなければならない。まずは、新型コロナウイルス事態

についての詳しい知識を得るために、ウイルスの発生原因や、感染経路、日本における感染者数、入院者数、重症患者数などを学ぶ。そして、日本では、どのような対策が取り入れられており、どのようにして、全国各地で収束へと向かうことができたのかを知る。また、世界とも比べてみて、世界ではどのような事態になっているのか、どのような地域で感染が拡大しているのかを知り、それぞれの地域でどのような対策が取られているのかを知る。日本だけでなく世界共通で直面しているウイルスという課題にどのように向き合っていくのか、どのように共存していくのかを詳しく学ぶことで、今後に生かすことができる。このウイルスに対して、現在、様々なワクチン開発が進められており、日本でも治験が告知されており、近い将来ワクチンができるであろう。しかしながら実際に私たちへ薬の投与がなされるまではかなり時間がかかるうえに、厳しい審査や段階を踏まなければならないため、ウイルスが感染拡大しやすい秋冬までに完成するのは難しいといわれている。よって、秋や冬を迎えるまでに第二波への対応策を考えなければならない。政府はどんな対策をとろうとしているのか、各自治体は市民に寄り添えるような対応策を出しているのか、そして私たち自身は、今回の自粛期間の中でウイルス拡大の恐ろしさを目の当たりにして、次に同じようなことが起こった時にどういった行動をとるべきなのか、また、感染爆発や医療体制の崩壊が起こらないようにするためには何ができるかを考えておく必要がある。医療現場の実際の声を知り、現実ではどのようなことが起こっているのかを学んだり、自分の体験や経験を通して、私たちにできることは何かあるのかを考えたことを、他者にしっかり発信していく力を身に付けて、意見の交換を行い、共有することで、自分では気づくことができなかった視点からの学びを生むことにもつながり、そこから派生して新たな疑問点や、問題点にも気づくことができ、より一層深掘して考えていくことができるような対話的な授業を行う。 (ミナミ)

## 6. 単元目標

三時間の授業を通して、新型コロナウイルスについて詳しく学んでいく。

第一次の授業では、新型コロナウイルスの発生原因や感染経路などの知識を身に付ける。1人1人が感染源になる可能性を理解し、ウイルスについて正しく怖がること、また対策に繋げる。

第二次の授業では、世界や日本の患者と向き合いながら、必死に私たちの社会に貢献して下さっている医療現場の実際の声を知る。現状では、どのようなことが起きているのかを把握することで、自分自身のこれからの行動に生かすことができたり、自分が社会に対して、できることは何かを考えるきっかけを作ることにつながる。

第三次の授業では、自分の経験や体験を通して、今回のウイルス関連で学んだことを今後に生かすためにしっかりと振り返り、新たな生活様式に対応していく術を考える。そして、グループワークを通して、他者の意見も参考にしながら、意見を交流する。

## 7. 指導計画

第1次 コロナウイルスについての知識

第2次 医療従事者へのインタビュー

第3次 今後の生活様式と改善策

## 8.展開

### (1)第1次

#### 目標

世界や日本でどれほどの感染者・死者が出たのか知ることによってウイルスの怖さを理解・共有し、自分の命だけではなく、家族など周りの人の命も守るために必要なウイルスについての知識を蓄え、また、再び来ると予想されている第2波に対して予断を許さず備えようとする姿勢を促す。

	学習活動	留意点	準備物
導入	世界で確認されているコロナ致死率の数字を表示する 主要発問「日本は安全であったのか」	《何の数字でしょう?》 ・3つ選択肢を与える ・全員一斉に発表(リアクション) 感染者数からわかる致死率の数字表示によりウイルスの恐ろしさを感じさせることができる。また「日本は安全」と思うのではなく、いつかはそうなる身近な問題として捉えさせる。	必要な数字
展開	動画視聴 (近畿大学医学部教授兼医師 宮澤正顕)  動画の内容が簡単に示された板書をプリントに記入する  感想を記入する	・動画が誰のものであるか伝える 情報リテラシーについて軽く触れておく ・動画の内容を後に聞くことを伝える  ・生徒の反応を見ながら行う ・生徒に答えてもらう部分を設けながら進める コロナについての興味・関心が無い人でも1人1人が感染源になるかもしれない可能性を理解し、その意識を持たせることにより、正しく怖がることに繋げる。 1人で感想を書いた後グループワークで発表する時間があることを伝える。	コロナ資料 ・デマ情報 ・コロナ動画 ・板書内容  ・感想プリント
まとめ	グループワーク ・感想を発表 ・疑問点について話し合い次回までに行う宿題を決める	・グループを作る(1班5人程度) グループを作ることにより発言しやすくし、全員発表できるようにする。 相手がどんな視点で考えているのか考えながら自分以外の人の感想を聞くようにする。 疑問点についてグループのメンバーはどれに興味があるのか、感想を聞いた結果から考えるようにする。	・感想プリント

(2)第2次

目標

看護師の方へのインタビューを経て、医療現場の実態を学ぶと共に、自分に出来ることがあるのかを考え、共有し、発信していく力を身につけさせる。また家族に医療従事者の方がいると想定し、医療従事者差別の問題についても考えていき、感謝の気持ちを改めて実感するように促す。

	学習活動	留意点	準備物
導入	前回授業の宿題となった疑問点についてグループの代表者が全体へ発表をする。	・板書しておき、授業中何度でも見返せるようにすることで、本時の内容とも結びつけて考えさせる。	
展開	看護師へのインタビュー主要発問「医療従事者に対するイメージは？また話を聞いて何か変わったか？」	・個人の感想プリント(1)Aを記入させる。 ・インタビュー内容の紹介とともに、合間で生徒への発問を設け、対話的な授業を心がける。 ・自分には何が出来るのかを考えさせる ・医療従事者への差別問題とも繋げて改善策を考える ・個人の感想プリント(1)Bを記入させ、Aと比較しそれについてもグループワークで共有するように伝える。	・インタビュー内容と紹介の順番  ・生徒の回答の予想 (例)病院が混まないように自分が感染ことを心がける。 医療従事者への感謝を忘れない。 ・個人の感想プリント
まとめ	グループワーク ・インタビューを聞いた感想の発表 ・新たに得た知識や疑問点の共有	・グループをつくる(前回とは違う分け方で1グループ4、5人程度) ・インタビューを聞く前と後で変わった自分の考えをまとめさせる。 ・全員が発表しやすいように役割分担を設け、順番に回していく(司会者、発表者、書記) ・看護師の方への質問についてはまた返事がきたら伝えるようにする。 ・グループを巡回し途中経過を観察する ・出た意見について1部発表させ、肯定しつつ自分の意見も最後にまとめる	・グループ用のまとめプリント ・個人の感想プリント

(3)第3次

目標

自粛中の生活で経験したことや体験したことを通して、より一層身近な問題であるという風に捉えて、「新しく」、そして、「あなたらしい」生活様式を考えることができる。

学習活動	留意点	準備物
<p>① 今日の学習の目標を知る</p> <p>② 自粛中の生活で経験したことや体験したことを通して、「新しく」、そして、「あなたらしい」生活様式を考える</p> <p>グループワーク (25分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分で考える時間 (10分)</li><li>・グループワーク (15分)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自粛中どのようなことに気を付けて生活したか</li></ul> <p>《→自分自身について》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・今までの生活様式と違うところ</li></ul> <p>《→社会的に見て考えられること》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・これからの新しい生活様式をあなたらしく取り入れていくにはどうするか考える</li></ul> <p>《→自分自身について、また、社会的に見て》</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・まず自分で考えさせて、3つの議題でグループワークをする。</li><li>・役割分担をさせることでみんながしっかりと意見を共有できるようにする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・議題について書くためのプリント</li></ul>
<p>③ マスク制作 (25分)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・作業 (20分)</li><li>・発表 (5分)</li></ul> <p>・家庭科室で行う (アイロンなどが使える)</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・作ってきたものを見せて、「今日はこれを作ってもらいます」という事を伝える。 (自分が作り方を把握しておくため作っておく)</li><li>・作業しながら、作ったマスクをどうしたいかを話し合ってもらい、あとで発表してもらう。</li><li>・分かりやすい作り方の説明のプリントを配り、先ほどのグループで教え合いながら作らせる。</li><li>・自分は全体の様子を見回りながら手伝ったり、様子をうかがう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・家にあるいない布などを持ってこさせる。(布だけで作る)</li><li>・もしも忘れた子がいるときに備えて自分も少し持っていく。</li><li>・裁縫道具</li></ul>

記入者	よかったところ	アドバイス
サキさん	授業の流れを最初に説明することで概要がわかり、何を学ぶのか簡単につかめた。発問が身近なもので考えやすかった。1限の授業との繋がりが見えて学んだことを活かす場面があり知識をつけやすいと思った。	私の反省点でもあるのですが、そのままパワーポイントを読んでいる時があったのでもっと簡潔にまとめた方が良いなと思った。
マオさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうすでに話し方が先生みたい!!!</li> <li>語りかけのような話し方や、「みんなは(見ている生徒が)こう思っている・感じたんじゃないかな?」という風に代弁?しているの、説明感がなくて、楽しく授業を受けることができました!!</li> <li>・マスクを着用していたり、仕掛けを作っているのはよく考えられているなあと思いました!!</li> <li>・パワポが本当に素晴らしいと思います。使い方が上手ですし、右側左側の使い方が上手だなと思いました。</li> <li>・生活の変化と向き合おう!!</li> </ul> についての質問内容がとてもいいと思いました! 次の授業につなげたり、答えのない質問なので、答えやすいし、みんなが盛り上がるのが想像できました!!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の時にマスクしているの全然違和感なかったです笑</li> <li>・はじめが参加型だったので、後半がもっと参加したくなりました!!</li> </ul> アンケートはどこのアンケートなのか、何人にとってのかなどが気になりました!! (聞き逃してしまってたらすみません) ありがとうございました!! ヨシトモさんが先生になった時に私が生徒として授業を受けてみたくなりました!! 楽しい授業でした!! ありがとうございました!!
マユミさん	「なんでマスクしてると思う?」とか聞いたり、答えのない質問とか答えに対してポジティブな返し方をしているいいなと思いました。	ですます調とため口が混ざっていたのでどっちかに統一したほうがいいのかなと思いました。それ以外特になかったです。
(自分で)	多くの課題が見えたからこそ、やってよかったです。新しい授業の展開もつかむことができたので、これからの大きな経験になりました。	時間を気にする余裕がなかったことが、まだまだ甘い部分でした。また、授業の締めが曖昧だったのが、惜しかったです。最後を全体の内容と併わせて締めないと全体がぼやけて、「?」が

		<p>残ったまま終わってしまうことがわかりました。動画を見返しても、内容が行ったり来たりすることが多いので、生徒の反応を確かめる機会が少ない zoom ではもう少しスムーズな授業展開が必要でした。</p> <p>また、パワーポイントに文字が多すぎ読み追いかけるだけになったので、その使い分けも課題の一つです。</p>
カリンさん	<p>授業の入り方が良いなと思いました。どう思うかといった質問を取り入れていて生徒とのやりとりを大切にしているなど感じました。</p>	<p>マスクの部分での効果とねらいの部分について、表の同じ行での効果とねらいが関連しているのかと思ったので関連していなければページを変えたり少し離して表示したりした方が見やすいかなと思いました。</p>
カオリさん	<p>パワーポイントの活用の仕方が工夫されていた。マスクについての発問の内容も良かったし、それに伴って授業が進められていて良かった。</p>	
タイキさん	<p>生徒の変化と向き合い、正解のない質問を問いかけてあげる講義がとても良かった。また、社会の視点や個人の視点から説明することであらゆる角度の知識が備わるため良いと感じた。</p>	<p>せっかくいい発表であったのに PP に文字が多すぎて見づらかったため、要点をもっと簡潔に述べることをお勧めする。</p>
レナさん	<p>ワークシートやアンケートの作成がよかった。すぐにでも、中学生、高校生に教えられそうだった。</p>	<p>アドバイスが見つからないです。</p>
リョウさん	<p>生徒に率直な意見を言うように促す事で生徒が難しく考え過ぎず、授業に参加し易い環境にできている点が良かった。</p>	<p>重要、伝えたいポイントをもっと強調して話したり、2度言うなどするともっと良くなると感じた。</p>
しげ子さん	<p>本日の流れのレジュメが分かりやすかったです。マスクについてすごく詳しく調べられていたのが良かったと思いました。ワークシートまで作っていてすごいと思いました。</p>	<p>全体的に文字が小さめで見にくい部分があったので、もう少し文字が大きい方が良かったと思いました。アンケートのところで何人に調査したのかを書いた方が良かったと思いました。</p>

アイさん	ゆっくりと分かりやすく話していて、聞き取りやすかったです。スライドのアニメーションの工夫も良かったです。	パワーポイントの文字なのですが、右揃えが多かったので、段差を変えるとより見やすくなるかと思います。
ミナミさん	分かりやすく要点がまとめられており、説明も丁寧で分かりやすかった。	
ミチさん	優しい話口調で生徒へ語りかけるところが良かった。マスクについてメインの内容であったがオリジナルの発問が用意されていたり、色んな観点からのアプローチが面白かった。	アンケートの総数も知りたかったが、割合を書いている円グラフで表していたのは良かった！
ユキさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクの導入が新しく面白かった。</li> <li>・マスクの販売の狙いはあまり考えていないところなので注目しているのがいいなと思った。</li> <li>・写真やグラフを使っていてわかりやすかった。</li> </ul>	
チアキさん	発問が良かった。マスクってしぼって授業を進めている点が良かった。写真もうまく使っていて興味がわいた。	
上野山	<p>導入のつかみも工夫され、話し方も生徒に問いかけて気持ちをほぐす感じがよかったし、生活経験やだれのためのマスクかを考えさせていて良かったです。スライドの作り方も上手ですね。</p> <p>SNS アンケートの質問項目もアベノマスクについてと焦点を絞って具体的な問いだったので、回答者の意見を反映しやすかったと思います。アンケートの分析グラフもわかりやすかったです。</p>	<p>ズームでの画面共有は、リンク先までは共有できないみたいです。私の設定でどうにかできたのかもしれませんが。申し訳なかったです。ワード文書を先に開いて最小化しておいて画面共有する方法をとると確実です。</p> <p>マスクに絞っても色々なことを学べますね。自分を守るだけでなく、弱者や医療従事者をも守ることに繋がるという視点にも広げると社会問題にも切り込めます。</p> <p>アンケート、たくさん集めたので総数やとった時期なども表示すると良かったですね。</p>